

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

公益財団法人 ハーモニィセンター

令和 2 年度 (2020 年度)

事業報告書



目 次

1. 概況.....	2
2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理.....	3
2- 1 ポニーキャンプ	
2- 2 日帰り企画	
2- 3 蓼科ポニー牧場	
2- 4 相馬ポニー牧場	
2- 5 小貝川ポニー牧場	
2- 6 目黒区碑文谷公園こども動物広場	
2- 7 葛飾区水元スポーツセンター公園子ども動物広場（ポニースクールかつしか）	
2- 8 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場	
2- 9 万騎が原ちびっこ動物園	
2-10 板橋区こども動物園本園・高島平分園	
2-11 上千葉砂原公園ふれあい動物広場	
2-12 海老名ふれあい動物施設	
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及.....	9
3- 1 「馬のいる領域」研究集会	
3- 2 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業	
4. 川べり環境の整備及び活用の推進.....	10
4- 1 カヤック教室・水辺でのプログラム	
4- 2 河川騎馬パトロール	
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進.....	10
5- 1 モンゴル大草原乗馬交流	
5- 2 日独青少年相互交流計画 2020	
6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信.....	10
6- 1 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行	
6- 2 キャンプ募集チラシの発行	
6- 3 WEB 広報	
7. その他.....	11
7- 1 規程変更	
7- 2 馬の管理	
7- 3 人材育成	
7- 4 会議等	

1. 概況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、一年を通じて手探りの運営を強いられることとなった。

多くの自然体験活動を提供する団体が活動の中止や大幅な変更を余儀なくされる中、ハーモニィセンターも例外ではなく、デイキャンプを含むキャンプの中止や規模の縮小を行ったほか、予定されていた移動動物教室の相次ぐキャンセルによって、子供たちへのプログラム提供機会は大きく減り、自主事業は大幅な減収となった。

このことはハーモニィセンターの活動の生命線のひとつである、カウンセラーの活動機会の減少にもつながった。「明るくて、タフで、骨惜しみしない」というカウンセラーの精神やノウハウは、同世代の仲間が共に身体を動かし、喜怒哀楽を共にすることで先輩から後輩へ脈々と受け継がれてきた。その機会が失われたことは、ハーモニィセンターにとって経済面を上回る打撃と認識すべきであろう。

とはいえ、運営ガイドラインを定めて感染拡大防止策を練り、平常時以上の人員を配置して事業を実施したこともあってか、利用者、参加者を含む関係者から1人も新型コロナウイルス感染者が出なかったことは幸いであった。

加えて、インターネットの活用がいつそう進むことで、子供たちへのオンラインプログラム提供などの新たな取り組みが生まれたほか、問題解決のための迅速なミーティングや他団体との情報交換の機会も飛躍的に増えた。それ以外にも、体調管理をはじめとする職員の勤務姿勢や各プログラムの実施方法を見直さざるを得なかったことで、今後の新たな団体運営に向けた数々の学びを得ることができたと言える。

事業収入の約8割を占める動物広場の運営は、各自治体の判断に従って進められた。緊急事態宣言が発出された際には、一部の休園やプログラムの中止などがあったが、委託料、指定管理料に基本的に変更がなかったこと、各動物広場の運営状況に応じて職員の休業措置を取るなどの対応によって、なんとか持ちこたえることができた。

その他、明るい話題としては、運営受託している板橋区こども動物園本園が12月にリニューアルオープンしたことがあげられる。感染防止対策のために一部事業制限をしながらも、連日多くの来場者で賑わった。1~2月に実施した障害児者施設での動物ふれあい事業実施を目的とするクラウドファンディングでは、想定を上回る寄付を得て、多くの方々に支えられ、期待されていることを再認識させられた。JRA 日本中央競馬会からのご支援をいただき、永年の懸案であった蓼科ポニー牧場厩舎改築が始まったことも、大きなニュースだ。

法人運営に関しては、より健全な統治が行われるよう議論を重ねてきた。その中で、評議員、役員選任方法については、評議員有志を中心に内規が策定され、新たな一步を踏み出すことができた。このことも、当法人における評議員、役員のあり方を見直すよいきっかけになった。

振り返ってみれば、終始、我慢と警戒を強いられたものの、その中から新たなアイデアが生まれ、多くの応援して下さる方々の存在を再認識するとともに、ハーモニィセンターが長年をかけて培ってきた強みを感じることもできた一年であった。

現時点においても、コロナ禍の影響がどこまで続くか見通せない状況にある。しかし、この一年の学びと経験を生かして、やれること、やるべきことを追求、実行し、次の5年、10年につなげてゆきたい。

2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理

2-1 ポニーキャンプ

新型コロナウイルスの影響で、GW や冬の長期キャンプを中止。また、キャンプ中の感染症対策として屋内でのマスク着用や施設入室前の消毒などの他に、定員を70名から30名まで減らしたため、キャンプ数・参加者数ともに減少。夏は蓼科4コース、小貝川3コース、春は蓼科4コース、スキー1コースを実施した。



前年度42コース（子供キャンプ34・ファミリーキャンプ8）に対して今年度は20コース（子供キャンプ18・ファミリーキャンプ2）と、22コース減。参加者は前年度1,121人、今年度448人で、673人の減となった。

今年度は、ほぼ全てのキャンプが受付開始後早い段階でキャンセル待ちとなり、春の長期キャンプは受付開始後1コース追加開催した。受託キャンプは、例年実施していた「いちごっこキャンプ」が新型コロナウイルスの影響で中止となった一方で、スキーキャンプなどで関係のある新潟県六日町の子供達を蓼科ポニー牧場に招いてキャンプを実施した。

また、緊急事態宣言下ではスタッフ、カウンセラーで協力し、ステイホーム中の子供達のため毎日、Facebookで定期配信を行った。総再生回数は10万回を超え、Facebookフォロワーも約300名増加した。

○ 長期キャンプ…学校の長期休暇中(夏、冬、春)に実施

	キャンプ名	実施回数	参加者
①	蓼科ポニー	8	229
②	小貝川ポニー	3	42
③	八ヶ岳登山	1	14
④	勝浦	0	0
⑤	河口湖スケート	0	0
⑥	六日町スキー	1	20
計		13	305
令和元年度		22	733
差異		△9	△428

○ 短期キャンプ…週末、連休に実施

	キャンプ名	実施回数	参加者
①	蓼科ポニー	3	80
②	奥秩父野外	0	0
③	河口湖スケート	0	0
④	ファミリーキャンプ(蓼科)	2	35
⑤	小貝川	1	15
⑥	六日町スキー	0	0
計		6	130
令和元年度		17	390
差異		△11	△260

○ 受託キャンプ…外部からの依頼で実施

	キャンプ名	実施回数	参加者
①	いちごっこキャンプ	0	0
②	六日町キャンプ	1	13
計		1	13
令和元年度		1	19
差異		0	△6

2-2 日帰り企画

4・5月の緊急事態宣言解除後の6月と9月に日帰り企画（HAC）を感染症対策として定員を減らし、5回実施。例年行っていたハモフェスは中止。他にも、コロナ禍で体験が減っている子供やカウンセラー達の活動の場として、他団体と合同で日帰りイベント「今こそ体験を」を実施した。

○ 事業結果

	企画名	実施回数	参加者
①	HAC	5	37
②	ハモフェス	0	0
③	今こそ体験を	2	65
計		8	107
令和元年度		9	166
差異		△1	△59



* 「ハモフェス」は例年11月に開催するハーモニィフェスティバル（旧「親子祭り」）

* 「今こそ体験を」は他団体と合同で実施した日帰りイベント

2-3 蓼科ポニー牧場

本年度は、コロナ禍にあっても出来ることを意識して運営を進めた。平日の牧場利用増加を目指して不登校児の受け入れ事業に取り組み始めたが、ぼこあ・ぼっこの協力によって未就学児、不登校児、その家族が牧場利用をすることにより、地域での認知度が上がった。また、日本中央競馬会（JRA）の支援を受け、老朽化した厩舎の建替えに取り組んだ。

制約の多い一年ではあったが、野外での活動、子どもにとっての体験活動の重要性を、より強く実感することとなった。



1. 宿泊の牧場利用

コロナウイルス感染症の影響により、宿泊の受け入れには困難があったが、可能な限り対策をとりながら実施した。家族単位での牧場利用を提案し、ファームステイという形での家族利用の受け入れを試験的に実施した。

自主事業のキャンプ8回（21泊）、OB会1回、ライダーズカップ合宿1回（1泊）。他団体利用1回（1泊）、ファームステイ4回（7泊）。

2. 日帰り団体の牧場利用

前年に引き続き、ぼこあ・ぼっこによる育児支援プログラム、牧場ようちえん（未就学児対象）、ポニーパーク（一般対象）、赤い羽根共同募金事業等を継続実施（のべ255名利用）。次年度の「ぼくじょう幼稚園」の基礎となる。

また、1月より日本財団の支援を受けて、不登校児受入れ事業「ひだまりファーム」を開始（のべ59名利用）。社会問題への積極的な取り組みとして、今後は助成金に頼らない運営を目指す。

3. 蓼科ジュニアポニークラブ（TJPC）

小1～中3が対象で、高校生OBのボランティアも参加可としている。月2回実施で、年間を通じた活動の大半に父兄が関わる。地元中心ではあるが、東京からの参加者もあり。コロナウイルス感染症の影響を受け、活動回数、行事も制限を受けた。月謝制¥5,500/1名。

計	参加者数	行 事
20回	のべ314名	前後期保護者会（年間活動・役員選任）、ライダーズカップ

4. 移動乗馬教室

計16日 のべ99頭

5. 牧場レッスン・引馬

コロナウイルス感染症による休業期間の影響を受けて、昨年比30%減となった。

6. その他

(ア)ポニーステイ

長野県伊那市立伊奈小学校にガリバーを無償貸与した。

(イ)カウンセラー研修

宿泊研修1回を実施した。

(ウ)牧場フェスティバル

地域での認知度を上げるべく、本年初めて実施。2日間で648名の乗馬体験を行った。

2-4 相馬ポニー牧場

前年度に引き続き、南相馬市地域復興プログラムにおける除染物質の仮置き場として放牧場を貸与した。豪雨による牧場内の土砂崩れがあり、補修工事（令和3年度）の準備をした。

また、原子力損害賠償紛争解決センターに対して和解仲介の申立てを行っている。

2-5 小貝川ポニー牧場

1. 宿泊団体の牧場利用

予定していたGWキャンプとSWキャンプは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施を見送った。また、夏キャンプと冬キャンプについても、定員に制限を設け、宿泊施設も貸し切りにて行うなど、感染拡大防止に努めた。



2. 日帰りの牧場利用

新型コロナウイルス感染予防の観点から定期的に利用くださっている団体の利用控えも生じた。特に障害のある方の団体のキャンセルが顕著に見られた。一方で、昨年新規で受けた雑誌「BE-PAL」によるユニバーサルプログラムの乗馬とEボートプログラムは好評を博し、再度実施された。また、キャンプ参加者の保護者の仲介で、三郷市教育委員会主催のプログラムも実施に至った。

遠出ができないため、引馬や乗馬レッスン、カヤック教室への参加希望者が多かった。休業期間があつたにもかかわらず、引馬は前年と変わらない利用者があつた。乗馬教室は週末や祝日に希望が集中し、断らざるを得ない状況も生じた。カヤック教室は、例年、年3回開催していたが、キャンセル待ちが多数出たため急遽開催を増やした。

3. ポニー教室

小学1年生から中学3年生が対象で、地元カウンセラーなどの力を借りて日祝日に実施している。参加希望者が増えて密を避けられない状況となったため、いったん入会受付を中止した。しかし、入会待機者が増え続けたため、年度末に土曜日クラスを新設した。コロナ禍によって、人との関わりが希薄になっていることへの危機感を持つ家庭が増えていることが入会希望につながっているのではないかと考えている。

両クラスとも、定員を30名とし、これまではなかった退会規定も設け、各クラスへのキャンセル待ちに対応できるようにした。

4. 移動乗馬教室

新型コロナウイルス感染症の影響で移動乗馬教室は軒並みキャンセルとなった。

5. ポニーステイ〜譲渡

大田区の一般家庭会員からの依頼で、ミニチュアホースをポニーステイで一定期間預け、問題なく飼えるという判断から譲渡した。住宅街をポニーと散歩しているということで、ハーモニセンターと馬事普及についての宣伝効果は大きいと実感している。

2-6 目黒区碑文谷公園こども動物広場（指定管理者 指定期間5年の2年目）

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら基本事業（小動物とのふれあい、引馬、ポニー教室（個人・団体））を行い、基本方針「地域住民との協働や公園活性化等の実現」を目指した。地域住民との協働は、感染症対策の一環として、一大イベントであるポニーまつりの実施を控えたため、例年のような一体感を感じる機会は減ったものの、碑文谷公園のゴミ拾いを近隣住民と行ったほか、野鳥の相談、池への落下物など、公園に関する問い合わせや要望に地域団体と力を合わせ、可能な限り応えるよう努めた。

年間利用者人数は約60,000人であった。感染症対策の一環として人数制限を行い、前年度と比べ半減した。小動物とのふれあいや引馬では、利用できない方が少なくなるように、事前の利用案内（ホームページ、ポスター、当日の声かけ）の充実を図った。また、当日整理券を手に来なくても楽しんでもらえるように、馬とふれあう時間など、動物と仲良くなるきっかけ作りを意識して行った。

ポニー教室（個人）では発表会（例年参加者50名以上）に代わり保護者参観日（個別）を開催。ポニー教室（団体）では利用日の抽選や事前手続きをできる限り自宅から出来るようにし、アンケート調査もQRコードを活用し、感染症対策と環境配慮（ペーパーレス）を行った。各事業や場面において利用者に寄り添えるよう工夫した結果、アンケート調査において約8割の利用者に好評をいただいた。また、コロナ禍でも以前と変わらず、地域住民より野菜やおが屑の提供があったこと、本広場卒業生の活躍があったことも、ありがたいことであった。

感染症対策を講じながらの開園については、「生活の励みになっている」「遠足に行かなければならないが、魅力的な行き先が見つからず困っていた」など、利用者より多くの肯定的な声をいただいた。地域住民、幼稚園や保育園などの教育機関にとって、本広場、碑文谷公園そのものが大切な体験場所となっている印象を受けた。本年度は、ロコミなどにより、健常児のポニー教室（団体）利用が20団体増えたが、それも結果のひとつであると受け止めている。

約20年間活躍した2頭の馬との別れ（1頭は移動、もう1頭は逝去）は、本広場にとって大きな出来事であった。約1か月間、それぞれの馬へのメッセージ募集や献花台の設置を行ったところ、各プログラムの利用者や卒業生、その保護者、地域住民などから、その数は100を越えた。2頭がいかに多くの方に愛されてきたか、



利用者へ届けてくれたものの大きさを強く実感する時間となった。

次年度は受託開始から40年を迎える。コロナ禍にあり、これまでの日常が新生活様式に代わり、体験活動減少が心配される今だからこそ、今後も都会の真ん中の子供達やご家族の居場所や体験場所のひとつとして、感染症対策を講じながら、各事業の一層の改善を図っていく。

2-7 葛飾区立水元スポーツセンター公園子ども動物広場(ポニースクールかつしか)

(受託 1年契約)

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、前年度の2月29日から続いて4月1日より5月31日までの休業となった。休業期間中は新入職員の育成期間の場ととらえ、再開に向けて準備を進めた。再開後は区の担当課と協議の上、個人教室は半数、パートナーアニマル教室は従来の6人から4人へと人数制限を行い、かつ職員・利用者が徹底した感染対策を行った。



安心できる環境が整備されたことにより、制限した以上の利用者減とはならず、むしろ学校の体育や部活動の制限、他の習い事の休業などにより、中学生の参加や新規利用者の申し込みが増えるなど賑わいをみせた。区民感謝乗馬デー・子ども祭り・クリスマスホースショー・卒業生お祝い会などのイベントも開催時期を変更するなど協議・検討を重ね、無事に開催することができた。

その他、馬房裏の老朽化した倉庫、及び倉庫内の不要品の撤去を行い、環境整備を推進した。

2-8 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理者 指定期間5年の2年目)

新型コロナウイルス感染症により、思い通りの運営が出来ず、もどかしいスタートを切った年度となった。自粛期間中の閉園時は少人数での対応だったが、いつ開場してもいいようにと、園内整備に取り組んだ。

子供達の「広場に行きたい」というもどかしさを緩和するとともに、広場から心が離れないようにしようとSNSを積極的に取り入れた。通常では利用者がなかなか見ることができない動物の行動も投稿したことにより、新しいファンを獲得することができたと思う。

現在は、感染症拡大防止対策を取りながらプログラムを行っている。混雑時には利用人数の制限を設けており、再開ができないプログラムもあるが、利用者が寛ぐ「円形ベンチ」の修繕を行ったり、委託をしている売店も利用者サービスに工夫をこらすなど、利用者が満足できるように取り組んでいる。

これからも、利用者が安心して来場できるように、意識して運営をしていきたい。



2-9 万騎が原ちびっこ動物園(受託 契約期間5年の5年目)

コロナ感染症拡大防止の観点から、ふれあいコーナー(コンタクトコーナー)を利用者に開放する日が年度を通して1日ももてなかった。その代替として、3密を避ける策を模索しながらモルモット、ハツカネズミ(マウス)、ニワトリの展示を行い、質問コーナーを設置した。これにより、来園者に動物とのふれあいは出来なくても満足して頂いた。また、園の外側の植栽の変更工事、園内の舗装工事などハード面の修繕が多く、休園も多い年となった。

今年度をもって契約が終了したが、多くの方々に支えられ、多くの利用者の方に喜んでいただけたと思う。

2-10 板橋区こども動物園本園・高島平分園（指定管理 指定期間5年の1年目）

こども動物園本園の大規模改修が終了し、8月にリニューアルオープンの予定だったが、草屋根の崩れにより、12月8日に延期となった。開園準備期間中には近隣の方々からの励ましの声を毎日のように聞きながら、公園清掃や動物の調教に励んだ。コロナ禍の状況ではあるが、オープン後は土日でも5,000人以上、平日でも2,000人以上の来園者があり、地域の方や閉園前の常連の方々から非常にたくさんの「オープンおめでとう」という声をいただき、皆さんが楽しみにしてくださったことが伝わった。また、多数の取材を受けることにより新規来園者も増加し、コロナ禍でも安定した集客をしている。一方、本園によく来園される方の中には、込み合う本園より、落ち着いた分園を選ぶ方も出てきている。



リニューアルオープンに際し、新たにケヅメリクガメ3頭、ヤクシカ1頭、ミニチュアホースや中型ポニー、蓼科で誕生したポニーが仲間に加わり、来園者を楽しませた。特にケヅメリクガメは動物の毛にアレルギーのある方も触れることができるため、展示だけでなく、イベント的にふれあい体験を行い、好評を得た。一方、永らく貢献してくれたヤギやひつじが寿命により死亡することが重なり、職員や来園者を悲しませた。常連の方々からは思い出のエピソードを聞くことがあり、動物たちとのふれあいが生活の中での楽しみの一部になっていたのだと感じた。新しく仲間に加わった仔ヤギ、仔ヒツジには、安心してふれあえる動物たちになるように馴致訓練を十分に行い、来園者の人気者になった。本園での目玉となっているヤギの草屋根登りは仔ヤギを中心に行っており、新しい仲間たちのお披露目の場としても活用している。

指定管理者制度の導入に伴い自主企画によるイベントを行うようになり、年間イベント数も増加した。コロナ禍の影響で親子祭りの開催は中止となったが、本園分園ともに、人数を制限するなど感染拡大防止をしながら、小規模なイベントを実施している。

地域の方々により身近に感じていただくために、本園、分園ともに近隣の方々とともに花壇作りを行ったり、フリースクールや近隣保育園、幼稚園と公園清掃を行ったりしている。また、「ちょいボラ」を合言葉に、常連の方々を対象に施設の改修、公園清掃、動物クイズの提供などのボランティア活動の受け入れを行った。加えて、SDGsの観点に立ち、高島平にある板橋市場から廃棄予定の野菜をいただき、食品ロス削減につなげる取り組みも始めた。その他にも、物販、自販機導入、キッチンカーの受け入れなどの新しい取り組みを行っている。

次年度もコロナ感染防止に力を入れつつも、本来の目的である地域活性と、言葉や気持ちのふれあいによりほっとできる場所を両輪に運営していく。

2-11 上千葉砂原公園ふれあい動物広場（1年間の特命随契）

緊急事態宣言の発出により、ふれあいコーナー、引き馬を4月1日から6月7日、令和3年1月27日から3月21日まで中止とした。そのため、各コーナーの利用者数、入園者総数共、前年度と比べて減少した。しかし、中止期間外は多くの利用者があった。

コロナウイルス感染拡大防止の観点から、引馬・ふれあいコーナーとともに、利用者にはマスクの着用をお願いするとともに検温を行った。さらにふれあいコーナーについては、利用人数の制限のため整理券方式を導入した。これにより、1日の利用者数は以前と比較するとかなり少なくなりはしたが、その分動物とのふれあいが貴重な時間に感じられた。愛護倶楽部やポニー教室についても力を入れ取り組んできたが、活動中止を余儀なくされた。

3密を避けるために、イベントは実施できなかったが、1対1で利用者と接する場面が増え、広場の動物の話をする機会が増えた。今後、質問コーナーの設置やアンケートを実施するなどして、利用者には充実感や満足感を提供できる広場を目指す。



2-12 海老名ふれあい動物施設（受託 1年契約）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月～6月は休場となった（海老名運動公園内すべての施設が休止）が、運動公園自体はオープンスペースのため、来園者が多数見受けられた。

7月からは運動公園内でPCR検査を行う関係で、水・土曜日を休場日とし、引馬、馬車の運行、平日のモルモットのふれあいについては再開した。第2・4日曜日に実施していた小動物とのふれあいについてはスペースを仕切って実施しなければならない関係上、密になる可能性があるため、年度内に再開することができなかった。再開後は、近隣の動物とのふれあいを行っている施設の休止が続いていたこともあって、前年度までよりも広範囲から来場していただいていた様子がみられた。

出張事業については市内イベントの中止・縮小及び幼・保・小学校の外部者立入り規制により、依頼がなかった。

ポニーふれあい教室は夏休み、春休み、5月・6月に行っていた親子教室を実施することができなかったが、冬休み

は募集人数を半数とし実施することができた（6回）。

また、4月からの休園期間を利用して2頭のポニーに種付けを行った（佐島牧場にて、内1頭は妊娠。4月または5月に出産予定）。

令和3年度からは海老名市の直営となるため、今年度をもって契約が終了した。

3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

3-1 「馬のいる領域」研究集会

今年度は令和3年2月に開催予定ではあったが、令和3年11月に延期になった。主催の「ゆるやかネットワーク」と、当団体を含め特定非営利活動法人日本治療的乗馬、一般財団法人日本障がい者乗馬協会、特定非営利活動法人RDA Japanの4団体で開催方法や発表演題について検討中。毎回、4団体から実行委員会を選出して企画・運営にあたっている。他団体との連携や情報交換の一助となるので積極的に参加していきたい。

3-2 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業

地域でポニー乗馬及びふれあいの機会を提供し、馬を媒介とした青少年の健全育成や地域の活性化

を目的とする事業を公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会の助成金を受け、新潟県魚沼市、茅野市、取手市で9月から12月にかけて実施した。幼稚園、保育園、小学校、養護学校などを訪問したほか、蓼科ポニー牧場で「牧場フェスティバル」を2日間実施、小貝川ポニー牧場では発達障害児とその家族を招待して乗馬や馬とのふれあいの機会を提供した。

参加者はのべ4,750名に及び、多くの方と乗馬、生きものとふれあう楽しさを共有することができた。



地域/場所	日程	訪問か所	参加人数
南魚沼市	9月29日～10月8日	12か所	2,684名
茅野市	11月9日～11月14日	11か所	1,369名
蓼科ポニー牧場	10月24日・25日	—	648名
小貝川ポニー牧場	11月29日	—	49名

4. 川べり環境の整備及び活用の推進

4-1 カヤック教室・水辺でのプログラム

カヤック教室は3回の定員には収まりきれない多くの参加希望があり、キャンセル待ちが起きた。これは新型コロナウイルス感染症の影響で移動制限があったことで、野外での運動需要が高まったことによると考えられる。

活動場所の確保と河川敷整備を目的に、ゴミ拾い、草刈は年間を通して実施した。また、ポニー教室中にプログラムの一環として川遊びをしたり、ポニーキャンプでポニーを川に連れて行って河川乗馬を楽しんだ。



4-2 河川騎馬パトロール

2回企画していた茨城県河内町での河川騎馬パトロールだったが、いずれも新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止となった。

5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

5-1 モンゴル大草原乗馬交流

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で催行できなかった。

5-2 日独青少年相互交流計画 2020

ドイツから訪日予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で催行できなかった。

6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

6-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

月刊紙として発行した。(2,500部印刷)

サイズはタブロイド判とし、基本は4面(長期休暇前の6月号と12月号は6面)印刷。4面刷りの場合は1面と4面がカラー印刷。6面刷りの場合は1・3・6面をカラー印刷とした。キャンプに関心がある保護者層(20代~40代)が手に取りやすく、参加する子供達が楽しめる内容にするため、写真を多く取り入れ、毎月楽しんでもらえるようにシリーズものを増やした。

新型コロナウイルスの影響から、キャンプ報告やプログラムの告知ができなかったため、各施設の職員にスポットライトを当てる企画を打ち出した。

6-2 キャンプ募集チラシの発行

動物広場での頒布やキャンプ参加者へのお知らせを強化するため、代々木で内製し各広場で配布した。結果として広場からのキャンプ参加者が増加し、少しずつ根付いてきたように感じる。

6-3 WEB広報

より見やすく、クレジットでの支払いが実施出来るようWEBサイトを変更してから3年が経ち、各広場のブログを統合した。

また SNS は今までの Facebook だけでなく Instagram も活用。キャンプ中には様子を定期的にアップし、より多くの方にハーモニセンターの SNS を知っていただける、見ていただける機会を作った。

7. その他

7-1 規程変更

法改正、事業運営の実態に合わせて就業規則、育児介護休業規程を変更した。また、次年度の評議員及び役員改選に備え、新たに候補者名簿作成に関する規程を定めた。

7-2 馬の管理

財団所有馬 80 頭、行政（板橋区・海老名市）から預託馬 10 頭、引退競走馬支援団体より預託馬 1 頭、全 91 頭を管理。仔馬 4 頭の出産に成功。高齢馬の入れ替えを進めつつ、新馬 4 頭を購入。3 頭を有償譲渡。2 頭が病死。

ポニーステイ事業として、伊那小学校（長野県、公立）に令和 2 年 12 月より無償貸与。

7-3 人材育成

新型コロナウイルスの影響により、特にカウンセラー募集については大学・専門学校の授業時間をいただいていた説明会ができなかったため、新登録者は例年より減少した。来年度は、インターネット募集サイトのより積極的な活用、学校への説明会の依頼なども行い、新登録者数を増やしていく。

実際の活動においては、キャンプ数や参加者数が減ったため、例年通りの活動ができず、カウンセラーの経験不足・技術の低下が見られた。しかし、学生達のオンライン授業や学外の活動ができないことへの物足りなさが影響しているのか、オンラインでの新しい試みも含め、キャンプ、日帰りイベントへの参加意欲は強い。そのため、今後はカウンセラーのキャンプ以外の活動への参加を促すと共に、新企画の実施やオンラインも併用した研修会を模索していく。また、コロナ禍でカウンセラーと共にする場や時間が減ってしまうため、今まで以上に丁寧な指導や、積極的な関係づくりをするというカウンセラー育成の質が職員に求められる。

1. ポニーキャンプカウンセラー募集

カウンセラーの募集は、新型コロナウイルスの影響で例年実施している学校での説明会ができず、WEB サイト、インターネット募集サイト(activo)を中心に行った。また、対面での説明会を避け、zoom を使ったオンライン説明会を実施。また、継続登録をしてくれているカウンセラーにも積極的にカウンセラー募集を依頼し、紹介からの登録を多数おこなった。

2. 登録カウンセラー数（令和 2 年 3 月時点）

継続登録者数	新登録者数	合計
80	62	142

3. 職員研修会

7/6 マナー研修 1 年目職員対象

2/15 障害児との関わり・「目的」と「手段」 1 年目職員対象

7-4 会議等

1. 理事会・評議員会

- 第1回理事会 (5/24)
 - 第1号議案 平成31年度(令和元年度)事業報告案・決算案の件
 - 第2号議案 夏休みキャンプ催行他、6月以降の事業継続の件
 - 第3号議案 運営資金の借入の件
 - 第4号議案 監事候補者リストの件
 - 第5号議案 評議員会開催の件
- 定時評議員会 (6/14)
 - 第1号議案 平成31年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認の件
 - 第2号議案 運営資金の借入の件
 - 第3号議案 監事選任の件
- 第2回理事会 (7/22 書面)
 - 第1号議案 職員に夏季賞与を支給する件
 - 第2号議案 他団体(一般財団法人陽だまりコミュニティ)への役員派遣の件
- 第3回理事会 (8/30)
 - 第1号議案 役員賠償責任の限定契約の件
 - 第2号議案 金融機関からの長期借入の件
 - 第3号議案 評議員会開催の件
 - 第4号議案 規程変更の件
 - 第5号議案 使途不明金の件1(訴訟)
 - 第6号議案 使途不明金の件2(内閣府公益認定等委員会への報告書)
 - 第7号議案 長瀬げんきプラザ指定管理者グループへの参加の件
- 臨時評議員会 (9/27)
 - 第1号議案 金融機関からの長期借入の件
 - 第2号議案 規程変更の件
 - 第3号議案 使途不明金の件1
 - 第4号議案 使途不明金の件2
- 第4回理事会 (10/19 書面)
 - 第1号議案 クラウドファンディング活用による移動動物園実施承認の件
- 第5回理事会 (12/20)
 - 第1号議案 万騎が原ちびっこ動物園入札の件
 - 第2号議案 使途不明金問題終結の件
 - 第3号議案 臨時評議員会開催の件
- 臨時評議員会 (1/17)
 - 第1号議案 規程作成の件
 - 第2号議案 評議員・役員名簿作成委員会設置の件
- 第6回理事会 (3/21)
 - 第1号議案 令和3年度事業計画書並びに予算書承認の件
 - 第2号議案 規程改定の件
 - ①賃金規程 ②育児介護休業規程
 - 第3号議案 職員への期末賞与支給の件
 - 第4号議案 60周年記念事業積立の件
 - 第5号議案 車両修繕、購入積立の件
 - 第6号議案 相馬ポニー牧場、解体費用積立の件
 - 第7号議案 OA機器・ソフト購入費用積立の件
 - 第8号議案 役員改選の件

2. その他

- 新年互礼会 (1/18)
- 入職式 (4/1)
- 運営委員会 (4/6、4/9、4/13、4/20、4/26、4/30、5/11、5/16、5/23、5/26、5/29、6/8、6/29、7/13、7/22、7/26、8/11、8/24、9/4、9/14、9/27、10/12、10/31、11/14、11/30、12/10、12/14、12/27、1/4、1/12、1/26、2/5、2/8、2/22、3/5、3/9、3/10)
- 施設長会議 (4/4、4/10、4/20、5/26、6/29、7/22、8/11、8/24、10/12、11/30、2/8、3/8)

【賛助会員数】

令和2年1月30日時点
賛助会員A 214世帯

令和2年12月31日時点
賛助会員A 472世帯

* 会員の期間（会費の有効期間）
は1～12月となっており、事業
報告の「年度」とはずれている。
(平成27年度以降)